学校法人 クラーク学園 和泉短期大学

izumi NEWS

Vol.5
（2010年5月）

2010年度聖句

人にしてもらいたいと思うことは
何でもあなたがたも人にしなさい。
（マタイによる福音書7章12節）

2010年度 第46回入学式

いずみちゃん　クラークくん
（クラーク学園和泉短期大学のマスコットキャラクター）

izumi ニューズ Vol.5
和泉短期大学 広報渉外ユニット
発行責任者　理事長 深町 正信

〒252-5222 神奈川県相模原市中央区青葉2-2-1
TEL.042-754-1133（代表）
URL.http://www.izumi-c.ac.jp

2010年度 理事長の挨拶

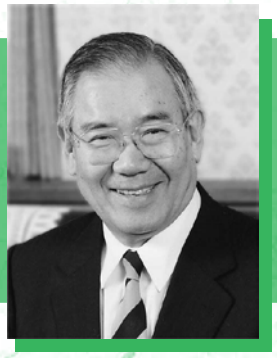
理事長　深町 正信

特 集

和泉福祉専門学校 閉校式講演「新たな出発に備えて」理事　岸川 洋治

izumi TOPIC 新入生の声

- 特別記念礼拝
- 第2回レクリエーション大会
- リサイクル図書の提供
- 永年勤続者表彰
- 退任教職員挨拶（2009年度）



「2009年度を顧み、2010年度を展望して」

理事長　深町 正信（青山学院名誉院長）

1 開学から現在までを顧みて

1952年（昭和27年）に、アメリカにあるキリスト教会に連なる多くの方々の祈りと米国財団クリスチャン・チルドレンズ・ファンド（CCF）の援助のもとに社会福祉法人基督教児童福祉会が設立されました。今日まで日本国内において様々な児童救済活動を実施してきましたが、昭和30年代になると、如何にして子どもらを育てるか、また、教育するべきかが重要な課題となりました。それとともに、施設に従事している保母、職員の資格の向上を図るための現任訓練講習会を開催して欲しいという要望が起こりました。

そこで基督教児童福祉会は1956年（昭和31年）4月に、東京世田谷に故バット博士を記念して建てられたバット博士記念センターを開設し、同年5月に、最初の保母、職員のための現任訓練講習会が開催されました。1960年（昭和35年）に、その現任訓練機関が「玉川保母専門学院」となり、1965年（昭和40年）に、和泉短期大学が設立されることになりました。1976年（昭和51年）に、短期大学の規模を拡充するために東京から現在の相模原市中央区にキャンパスを全面移転してきました。

1984年（昭和59年）には時代の要請に先駆けて始められたケア・ワーカー養成機関としての「和泉老人福祉専門学校」、つまり、今年3月までありました「和泉福祉専門学校」が同じく相模原市に開学され、短大から徒歩7分の場所に設立され、現在までに2,313名の卒業生を社会に送り出してきました。この専門学校こそは日本における介護福祉士養成の先駆的役割を果たしてきた学校の一つとも言うべき学校でした。そして現在までにこの専門学校を卒業し、介護福祉士として送り出されてきた福祉施設従事者は約2,200名余の方々が日本全国各地において良い働きをされ、高い評価を得てきたのであります。

しかし、昨今の少子化の影響と介護福祉の仕事の厳しさから、ここ数年間福祉専門学校への入学希望者が激減してきました。このような状況を踏まえて、クラーク学園理事会、評議員会は2010年4月から福祉専門学校を改組転換し、20名を定員とする和泉短期大学専攻科介護福祉専攻とすることを決断いたしました。

去る2010年3月16日に、福祉専門学校の最後の卒業式と、それに引き続いて閉校式を行い、記念講演「新たな出発に備えて」と題して、本学園の理事であり、現在は横須賀基督教社会館館長の岸川洋治先生にお願いしたところ、先生には大変に素晴らしい内容の講演をしてくださり、参加者一同、和泉福祉専門学校のこれまでの25年間の歩みを主にあって心から感謝する思いへと導かれることが出来ました。

更に、豊福義彦校長のもとに、「和泉福祉専門学校閉校記念誌」が作成され、その副題にあるように「和泉の志はこれからも」と一同が心から願ったことでした。茶話会では神奈川県立保健福祉大学名誉学長の阿部志郎先生をはじめとして各界の方々に貴重なお言葉の数々を頂く機会となりました。これまでご指導くださり、ご支援くださったすべての方々の尊いご支援に対して心から感謝するとともに、主の恵みに深く感謝した次第でした。

2 2010年度の和泉短期大学のビジョンについて

和泉短期大学の2010年度の歩みが始まりました。少子化の影響を受けて、心配されていた入学者も定員250名に対して296名、また、専攻科生も定員20名に対して27名の良い学生諸君を迎えることが出来ました。これはひとえにクラーク学園を愛してくださる方々、学校法人の役員、教職員、同窓会（卒業生）、父母会、後援会のご協力と愛校心によるものであり、ここにあらためて深く感謝を申し上げます。

去る4月2日に開催された第10回「全教職員の集い」でも申し上げたのですが、今年度も色々な課題をもっていますが、学園の大黒柱は主イエス・キリストであることを信じて、主の御心ならば、どのような困難、試練、課題に直面しても、必ずその閉ざされた道が開かれることを信じて希望をもってお互いの賜物を生かし合って前進して行きたいと思います。

昨年度と同様に今年度も「クラーク学園和泉短期大学ロード・マップ」を作成しました。そして、理事会、評議員会でも承認されましたので、これにしたがって進めて参る所存です。その中でも、財政の強化は今後の教育内容の充実と教育環境を整備する上で最も大切であり、大学資産の有効活用、土地、建物の有効利用、新たな事業収入を色々と検討してまいります。そして、単年度学校会計としては赤字を出さないように極力努力してまいります。大学と地域への貢献を考えて、現在、色々な事柄を検討していますが、現在行われている「子育てサロン（はっぴい）」の支援、学生支援推進プログラムの支援、実習園の設立、「にこにこベジタブルランド」の更なる有効利用等を、具体的に、慎重に実施してまいります。学生が快適に学ぶことが出来る明るい、居心地の良い教育環境を検討して、出来ることから実施してまいりたいと思いますので、皆様方のご理解とご協力を心からお願い申し上げます。

特集

和泉福祉専門学校 閉校式講演

「新たな出発に備えて」

理事　岸川 洋治

≪高齢化社会へ≫

有吉佐和子の「恍惚の人」が出版されたのは、1972年です。日本では老年人口割合が上昇し始め、1970年にはその割合が7.1％となり「高齢化社会」へ突入した時期です。1970年には中央社会福祉審議会が「老人問題に関する総合的諸施策について」答申し翌月、12月、厚生省は社会福祉施設緊急整備5ヵ年計画を発表しました。この5ヵ年計画の優先順位は、戦前から残っている老朽化した施設の建て替え、次に働く女性の増加に伴なう保育所の整備、そして最後が不足している特別養護老人ホームの整備であり、高齢者施設の整備は優先順位が低かったのです。

行政は施設整備に取り組むこととなりますが、高齢者施策に関して関係者の間に確固たる合意があったわけではありませんでした。当時の厚生省老人福祉専門官であった森幹郎氏は、「当時、老人対策の中、老齢福祉年金の増額等について異論をはさむ人は誰もいなかったと言ってよい。しかし、公的な介護扶養ともいうべきホームヘルパーの増員や特別養護老人ホームの増設については、必ずしも関係者全員の合意が成立していたわけではない。人々の心の中には、親の介護ぐらい子どもがするのがあたりまえではないかという考え方が強かったからである。政治家は誰一人として相手にしてくれなかった。こうした社会規範の中で、介護の社会システム化への途は非常にけわしかった」と述べています。（「恍惚の人」文庫版解説354頁）このような時に出たのが「恍惚の人」であり、「本書の爆発的な売れ行きの中で、老人福祉の推進に対する世論は高まり、関係者の合意はとにもかくにも得られたと言ってよい。思わぬ援軍であったわけである」。（同書）

この小説では、主人公の昭子が認知症の舅茂造の介護をめぐって医療、福祉、保健機関を駆け巡りますが、何のサービスもありませんでした。1970年の後半からようやく在宅福祉のメニューが登場します。

「恍惚の人」の出版元新潮社は老人を扱った内容なので売れるとは予想せず、初版4万部でスタートしましたが1年で140万部を売り上げました。著者の有吉は40代になったばかりでした。一億円を超える印税を老人ホームに寄付しようとした逸話もあります。

≪誤った高齢者観≫

森専門官が指摘したように国民に老人問題を投げかけた点は「わが国の老人福祉史の上に記録されるべき小説」でしょう。
しかし、一方「多くの人々に『老人ボケ』の怖さを強く印象づけ、長生きすることへの怖れや不安を呼び起こすうえでも貢献」したと指摘した人がいます。ジェンダー論を研究しているお茶の水女子大天野正子教授（当時）が『老いの近代』(岩波書店)という本の中でそのように書いています。

この本が発売されて間もなく私の上司の阿部志郎先生が「有吉はよく勉強したな」と言われたことがあります。有吉はこの作品化にあたって老人福祉関係者への取材を重ね、さらに数年間老年学を学んだといいます。有吉の描いた老人観は有吉自身のオリジナルではなく「老いを人間の行きつく『みじめな』未来と見る当時の老年学の潮流を写すものであった」と天野正子教授は主張します。

この当時、高齢者の増加と医療、保健、福祉、社会保障、あるいはひとり暮らしという生活形態などと結びつけて「老人問題」とひとくくりにして高齢者の存在自体が問題であるような見方が支配していました。

≪クラーク学園のチャレンジ≫

老いを人間の行きつく「惨めな」未来とみる老年学者の見方あるいは高齢者を否定的に見る見方を転換させるために新たなチャレンジをしたのがクラーク学園だと思います。

全国で特別養護老人ホーム900施設、寮母1万7千人、ホームヘルパー1万3千人しかいなかった1980年、中島武夫理事長はトロントの老人福祉を調査し、ケアワークの専門的人材を養成する必要性を感じ、介護福祉専門学校創立の夢を描き始めました。

クラーク学園は、キリストの愛を実践する人をそれを必要とする場に遣わすという教育理念があり、1980年代において必要とする場こそ介護の現場であるとの認識を持った役員と教職員が前例のない教育機関を創り上げました。

学校設立の動機は、キリスト教精神に基づく教育により真に老人の福祉ニードに応えるケアワーカーの養成が達成されるという確固たる確信に基づくものでした。

有吉佐和子が描いた「老いを人間の行きつく惨めな未来」としてみるのではなく、旧約聖書箴言「白髪は輝く冠」（16章31節）、「白髪は老人の尊厳」（同20章29節）の御言葉のように「老いは衰えのきざしではなく、栄光の象徴」と見るキリスト教の観点にたった高齢者観、さらに「讃美歌284番」に歌われる
「老いの坂をものぼりゆき　かしらの雪つもるとも
　かわらぬわが愛におり　やすけくあれわが民よ」

高齢期に入ろうとも人は人生の上り坂を上り続け、そのことを支援するケアワーカーの養成にキリスト教的人格観に基づく教育をめざし開校したのが『和泉老人福祉専門学校』です。

和泉老人福祉専門学校ができて2年後の1987年ようやく社会福祉士及び介護福祉士法が成立し新しい福祉専門制度が法制化され、介護福祉養成校としてあゆみが始まりますが、その教育の質は高いものであった。

第5代目校長の宮本和武さんから聞いた話ですが、「僕は教員には修士を修めた人でなければ採用しない、和泉の教員はもし退職しても大学でも働けるような人材で教育にあたっている」と語ってくれました。福祉専門学校としてのレベルの高さを示した言葉ではないでしょうか。

≪専攻科と福祉現場≫

そのハイレベルの教育を基礎として、今年の4月から和泉短期大学専攻科に改組転換し、保育士資格を有する者に介護福祉士の養成をすることとなりました。これは和泉短期大学が、乳幼児の保育や養護・教育を必要とするすべての児童、さらに介護を必要とするすべての障がい者、高齢者に向けて専門的社会的ケアの充実をはかる総合的なヒューマンサービスの実践者を養成する大学へと発展することを意味しています。専門学校時代の優れた教育があったからできることです。

和泉短期大学のこの決断は、福祉現場から見ますと実に先を展望した計画だと思います。私は今横須賀基督教社会館で働いています。社会館は産休あけの乳児から100歳近い高齢者や身体障がい者、知的障がい者が利用する複合施設です。保育所、障がい・高齢者のデイサービス、知的障がい者の通所事業など一つ一つが小さな施設ですが、法的には10施設が集まった複合の施設です。

障がいと高齢者に関する2つの相談機関も持っていますが、相談機関のワーカーが「今までは障がい者や高齢者の当事者の生活困難状況を中心に考えてきたが、今日ではそれを家族という単位で捉え、対応を要するケースが多くなった」と言っています。

保育園児を送り迎えしていたおばあさんが認知症となり、送り迎えが不可能となった家庭、障がい児を抱えている家庭の中で新たに起こった親の介護問題など家族全体を視野に入れた支援が求められています。

保育士であり介護福祉士という2つの専門知識が必要な場面がこれから益々増加することが確実です。

専攻科はクラーク学園ミッションステートメントの「子どもから高齢者に至るすべてのライフステージに対応する福祉と教育を担う『愛を実践する専門家』を養成することを使命とする」ことをさらに統合化した教育として具体化したものです。

もう一つ、介護の現場ではキャリアパス制度の導入が課題となっています。社会福祉事業に従事する専門職としての成長を促すにはいろいろな職場内における経験が必要です。法人内の異業種施設間の異動などで計画的に行う必要があります。そこで問題となるのが資格の問題です。社会館でも高齢者デイサービスと保育所相互の異動は資格の問題が障害となっています。

1990年代に入り、保育所と高齢者デイサービスの複合施設が推進されました。このようなところでは保育士と介護福祉士の施設間移動が可能となるためには両方の資格も持っている人が不可欠となります。

このような日常的な事からも和泉短期大学専攻科の働きは貴重なものとなるでしょう。

≪専攻科への期待≫

和泉短期大学専攻科での教育に期待することを2点申し上げたいと思います。

1. 横須賀基督教社会館の創設者エヴェレット・トムソン宣教師は、ソーシャルワーカーでもあり、社会館館長辞任後、明治学院大学院でケースワークを教えた人です。トムソン教授は「大切なことは、真のクリスチャン精神とすぐれたソーシャルワークの技術が自然に伴っていくことである。キリストに倣う歩みからソーシャルワーク技術における手段と細かい部分での適応を見出すことである。技術は人々の魂や内なる思いを見出す。その精神はイエス・キリストから学ぶべきことである」と書き残しています。

キリスト教社会福祉施設の現場から言えば、キリスト教精神とケアワークの技術を兼ね備えている人材を送っていただきたいですし、その教育ができるのがクラーク学園であります。

2. 社会事業史、社会事業思想史の大家、吉田久一先生は「宗教にとって重要なことは社会の現実に苦闘する『生きる人間』に『生きる力』を与えることだと書いています。キリスト教社会福祉の使命も全く同じでしょう。

阿部志郎先生は「弱さを担うことに真実の人間の強さがあり、弱さを担うことに、人間としての栄光を感じる、そのようなワーカーの養成をキリスト教主義大学ではして欲しい」と語られました。そのような教育から「生きる力」を引き出せるワーカーが育つのではないでしょうか。

今、「生きる力」を失った人が何と多いことでしょう。福祉サービスの利用者の「生きる力」を引き出せるワーカーの養成に期待いたします。

≪雄々しかれ、畏るるなかれ≫

歴代校長は、初代の伊藤忠利先生を除いて三吉明、花村春樹、小崎忠雄、宮本和武、豊福義彦各先生すべて明治学院大学の卒業生です。明治学院の校歌を作詞したのが島崎藤村です。校歌はこのように結ばれています。

ああ行けたたかへ雄雄しかれ
眼さめよ起てよ畏るるなかれ

私はこの詩から旧約聖書ヨシュア記1章、モーセが死んでその後継者となったヨシュアへの神からの言葉「あなたを見放すことも、見捨てることもしない。強く、雄々しくあれ。うろたえてはならない。おののいてはならない。あなたがどこへ行ってもあなたの神、主はともにいる」を連想します。

クラーク学園「創立50年誌」発刊に寄せてと題して学長の伊藤忠彦先生が、「数々の試練を希望と忍耐・信仰と知恵をもって乗り越えてきた、さらに次の50年に向けて『愛と奉仕』のモットーに言い表されている建学の精神にたって前進しなければならない」と書いておられます。

和泉短期大学専攻科の出発にあたり主は、私たちに建学の精神「愛と奉仕」に立ち返り、上なるものを仰ぎつつ、「雄雄しかれ」、「畏るるなかれ」と求めておられるのではないでしょうか。

略 歴

横須賀基督教社会館館長・北陸学院大学 教授
元 西南女学院 教授、学長、院長

【主な著書】

「近隣活動とコミュニティーセンター」（筒井書房）

以下、共著

「地域福祉の思想と実践」（海声社）、

「わかりやすい社会福祉・社会保障」（HIROKAWA）、

「福祉に生きる エベレット・トムソン／ローレンス・トムソン」（大空社）他

和泉福祉専門学校最後の卒業生と閉校式参列者

izumi TOPIC 新入生の声

児童福祉学科
1 年 上野 真実子

私は児童福祉を学びたいと思い、宮城県から上京してきました。宮城県内にも保育系大学が多くありますが、主に幼児教育を学ぶ学校がほとんどで児童福祉を深く学ぶのは難しいと思い、全国で唯一児童福祉学科単科の和泉短大を選びました。親元から離れ、初めてのことばかりで戸惑うことが多々ありますが、2年間一生懸命勉学に励みたいと思います。

専攻科 介護福祉専攻
宇野 麻里恵

私は、今年の3月に和泉短期大学の児童福祉学科を卒業し、4月に専攻科介護福祉専攻(1年制)へ入学しました。新設である専攻科への進学は、とても悩みましたが児童福祉学科でたくさんの人たちと出会い学んできたことを生かし、専攻科一期生ということを誇りに思い先生方と手をたずさえながら日々学び、成長していきたいと思います。これから介護を学ぶことで、子どもも大人も障がいの有無に関わらず支援できるという魅力に惹かれています。

特別記念礼拝

「イースター礼拝」「創立記念礼拝(創立54周年)」

学園の礼拝であるチャペルアワー。2010年度のスタートはイースター礼拝(4月12日)です。「復活祭の喜び」と題して、相模原教会牧師である辻川 篤先生が、イエスキリストの復活について、その意味をわかりやすく教えてくださいました。

創立記念礼拝は(4月26日)は、上溝教会牧師で和泉短期大学後援会会長である木村 治男先生がお話しくださいました。「愛のいずみ限りなく ―スクールモットー『愛と奉仕』―」というテーマで、私たちの学園の礎について聖書から深く学ぶ機会となりました。

イースター礼拝「復活祭の喜び」　辻川 篤先生

第2回レクリエーション大会

新入生歓迎の「レクリエーション大会」が4月17日(土)に和泉短期大学の体育館で開催されました。「ボールリレー」「背中合わせ」「借りもの競争」の3つの種目を行いました。その他にレクリエーション大会のメインともいえる2年生によるパフォーマンスも披露されました。今年は、昨年の反省点を踏まえ、委員会などでたくさん話し合いを重ねて改善し、当日を迎えました。結果、競技・パフォーマンスとも予想以上に盛り上がり、大成功を収めることができました。これからも和泉の伝統として1年生に引き継いでいってほしいです。

レクリエーション大会委員長2年　髙橋 利郎

パフォーマンス
「1年生入学おめでとう!」

レクリエーション大会委員

リサイクル図書の提供

図書館では、保存期間の過ぎた雑誌や旧版などで処分する本を、学生・教職員・卒業生の皆さんに提供するサービスを行っています。本の処分は、限られた図書館の書架スペースを最新状態に保つために重要なのですが、単に捨てずに、必ずリサイクルするように努めています。

保育の専門書・雑誌も多いため、リサイクルの提供が開始されると、引取りを希望する学生たちで図書館は大賑わいです。本の第2の人生が、この日から始まります。

実用的な本の人気も高い

永年勤続者表彰

2010年度の永年勤続者表彰が去る4月26日(月)の創立記念礼拝後に行なわれました。伊藤 忠彦学長、土橋 正文事務局次長、三好順平学生支援ユニット主任が永年勤続者として表彰され、深町理事長より表彰状および賞金、記念品が授与されました。

「保育者養成に従事できた喜び」　学長 伊藤 忠彦(勤続30年)

30年にわたって保育者の養成に従事することになるとは、思いもよらないことでした。大学で専門の教科(神学)のほかに教職課程と教育実習を終えましたが、教会の牧師の務めに専念したいと思い、教職免許の申請はしませんでした。しかし、このように保育者養成にたずさわることができたことは、振り返ってみて、神の御旨だったのだと信じ、感謝しています。児童福祉、幼児教育の大切さを身をもって知ることがことができました。

「クラーク学園とともに」　事務局次長 土橋 正文(勤続30年)

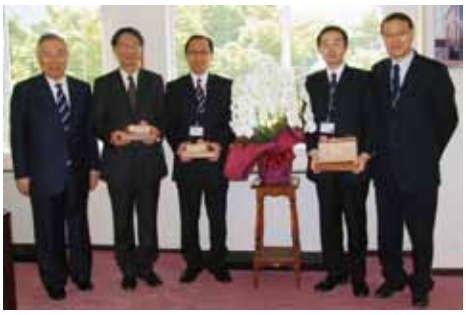
クラーク学園は、1956年4月にアメリカのCCFによって設立されたバット博士記念養成所が前身です。何かの縁でしょうか。私と学園は同じ年になります。

短期大学は、今まさに生き残りをかけた熾烈な競争の時代に突入しています。こんな時代だからこそ、血の通った温かい、ホッとする学園にしなければならいと思っています。

今まで学生や卒業生が真摯に保育に取り組んでいる姿を見てどの位、励まされたかは数え切れません。私や学園にとって学生や卒業生は、未来永劫に宝であり光です。

「大学職員として15年間」　学生支援ユニット主任 三好 順平(勤続15年)

15年前、図書館司書として働くことにこだわって就職活動を続けた結果、和泉短期大学の図書館に勤められることとなった私は、毎日喜びに溢れて過ごしておりました。その後、図書館から教務課、学生課、経理・施設ユニット、学生支援ユニットと異動させていただき、それぞれの部署で学生や教職員、学園に関わる皆様方に助けていただきながら、大学職員として15年勤めることが出来ました。ありがとうございます。



左から深町正信理事長、伊藤忠彦学長、土橋正文事務局次長、三好順平学生支援ユニット主任、佐藤公啓事務局長

退任教職員挨拶 (2009年度)

ご挨拶

教授
中村 美津子

保育者志望の学生さん達と34年間、和泉短大で学びを共にやってこられたことを幸せに思い、支え導いてくださいました多くの方たちに心から感謝申し上げます。数ヶ月を世田谷の校舎で過ごし、真新しい相模原の校舎に共に移ってきた学生さんも、今は50代となって各方面でご活躍と伺います。その後に出会った学生さんたちのご活躍、頑張りも本当に嬉しいものです。選択定年制制度に感謝して和泉を去りますが、「変えることのできるものについては変える勇気を、変えることのできないものはそれを受け入れる冷静さを、そして変えることのできるものと変えることのできないものとを見極める真の智恵を…」(R.ニーバー)を求めての歩みをこれからも続けて参りたいと思っております。皆さまのご多幸をお祈り申し上げます。ありがとうございました。

ふたたび和泉から巣立つ

助教
中野 陽子

和泉を十数年前に卒業をして、2年前に教員としてふたたび和泉へ戻ってまいりました。先生方のご指導のもと、実習・ボランティアセンターの業務に携わらせていただきました。教職員の方に暖かく見守られ、学生達からも多くのパワーをいただき充実した日々を過ごせたことに心より感謝申し上げます。4月からは、ふたたび和泉を巣立って、他大学において福祉を目指す学生とともに歩んでまいります。2年間、ありがとうございました。

お便りをいただきました。

非常勤講師　杉本 真理子(短期大学勤続10年)

この度は私が非常勤講師を退職するに当たりまして、書状と記念の品をお送りいただきましたこと、心よりお礼申し上げます。10年間にもおよび至らぬ私が和泉短大で学生さん方と過ごすことができましたのは、理事長先生はじめ先生方、職員の皆様のおかげと感謝いたしております。私の勤務させていただきました10年間の間には、男子学生も加わり、学生の質も雰囲気も少しずつ変わっていったように感じております。幼い子ども達が家庭を初めて離れて生活する保育所や幼稚園、様々な事情を抱える子ども達の生活する各種児童福祉施設に保育士・幼稚園教諭を送り出す養成校の使命は、今後ますます重要になることと存じます。和泉短期大学から専門性の高い保育士・幼稚園教諭が輩出され、その方々が社会でご活躍されていくことを祈念いたしております。また、ご縁がございましたら、ご指導いただけますようお願い申し上げます。長い間の感謝を込め、貴学の発展をお祈り申し上げております。

非常勤講師　和泉 禎子(専門学校勤続16年)

長年にわたり、講師として勤めさせて頂きまして有難うございました。学生と共に過ごしました日々が懐かしく思い出されます。過日は、記念の御品の美しいドライフラワーをお送り頂きまして有難うございました。末筆ながら、益々の学園の御発展をお祈り申しあげます。

非常勤講師　鈴木 啓三(専門学校勤続13年)

イースターの主を心から感謝いたします。このたびは、非常勤講師の退任にあたり、記念の品をご恵送くださり心から感謝いたします。十三年間にわたる学生との学習はとても楽しく多くのことを教えられました。また、諸先生には大変お世話になりありがとうございました。新しく出発されるクラーク学園のますますの主にあるご清栄を心からお祈りいたしております。

訃報

元クラーク学園法人事務長　阿部千秋氏が、2010年3月19日(金)22時00分肺炎のためご逝去されました。
(享年97歳)故人のご逝去を悼み、ここに謹んでお知らせを申し上げます。

阿部千秋氏　略歴

1976年 4月1日	採用　事務部次長	1979年 4月1日	事務局長付を解き　総務課
1976年 11月25日	事務局次長	1980年 4月1日	嘱託　理事長付
1977年 10月31日	定年退職	1981年 5月1日	嘱託を解き　クラーク学園事務局職員採用　法人事務長
1977年 11月1日	嘱託　事務局長付	1986年 3月31日	任期満了退職

学園関係者一同、ご家族の上に慰めと平安がありますようお祈りし、衷心より深く感謝申し上げます。